

平成30年度 海外研修修学旅行

✈ 専門学校静岡電子情報カレッジ
アメリカ西海岸



(サンフランシスコ、シリコンバレー、ロサンゼルス)

11月26日(月)~12月1日(月) 4泊6日

《研修概要》

◎世界有数のIT企業訪問・研修、現地日本人起業家による講演、エンターテイメントの最高峰ハリウッドでのスタジオ視察 ほか

教頭 有賀 浩

専門学校静岡電子情報カレッジの全学生が参加した今年度のアメリカ西海岸への海外研修修学旅行。事前研修で全員が高い目的意識をもって臨んだことにより、実に多くの成果を挙げることができました。大規模な山火事による大気汚染が発発直前まで懸念されましたが、すっかり改善され、西海岸本来の透き通った空気に恵まれました。晴れたり雷雨になったりと天候が不安定な中でしたが、体調を崩すことも事故も無く、全員揃って全行程を予定通り完遂できました。

サンフランシスコでの厳しい入国審査をクリアした後、ツインピークス、ゴールデンゲートブリッジ、フィッシャーマンズワーフを訪問。急坂を上り下りするケーブルカーにも乗車体験。シリコンバレーで活躍されている井坂様からはAIを始めとする最先端IT並びにグローバル社会で求められる極めて迅速なビジネスの在り方について講演頂きました。

シリコンバレーではGoogle、Apple、Intelと、世界最大級のIT企業本社を訪ね、最先端のUI、ARに触れるとともに、博物館ではITの劇的な発展を目の当たりにすることができました。

空路でロサンゼルスに移動した後、パラマウントフィルムズスタジオ、ユニバーサルスタジオ・ハリウッドで映像・音響の最先端技術に直接触れ、パワフルなエンターテイメントのパワーに大いに感動しました。

歴史・文化の異なるアメリカで最新・最先端のIT、エンターテイメントについて貴重な経験が積めたとともに、海外に出てはじめてわかる日本の素晴らしさも実感できました。第4次産業革命、Society 5.0のさなか、ITシステム分野、エンターテイメント分野のプロフェッショナルとなっていく学生たちにとって、今後大いに役立つことでしょう。

旅行前の段階から帰国まで、理事長・校長先生にご指導を頂きましたこと、また、旅行中を守って下さった教職員の皆さん、旅全般に亘ってご支援下さいました保護者の皆様に心から感謝申し上げます。

「日本とアメリカの物の捉え方の違い」

ロボット創造学科 2年 福地 雄大
シリコンバレーではAIに関する講義を井坂さんから受けました。日本がAIを万能ツールの見方をするのに対し、シリコンバレーではAIの得意不得意を基に分類分けする事で利用範囲を確定していました。AIを万能とし利用法を考える日本、AIの得意不得意を知り利用法を模索するアメリカ。両者には決定的な違いがある様に思えます。

「イノベーションを出し続ける場所」とシリコンバレーは呼ばれています。この場所では、専門家を見つけやすく特色があるため、技術が必要になった場合は雇用という形で問題を解決します。これは一人の負担を重ねる日本に比べ、自身の専門知識や技術のみを求められるため効率的であり、ストレスを感じにくいと思いました。

また、職場のスタイルも日本とは違い、各個人のデスクはありません。座席も少数グループに分かれ仕事をし、仕事を終えたら次のグループへと移動するという日本ではまず見られない仕事の方法をしています。研修修学旅行では、このような違いを体感できるいい機会になりました。社会に出てからアメリカで学んだことを実践していきたいです。

ゲーム応用学科 1年 服部 紘旭

私は、研修旅行に行く前に「最新の技術を知る」「異文化に触れる」「友情を深める」を目標にし、研修修学旅行に行きました。「今までにない経験ができる」と出発するときは不安と期待が入り混じっていました。

アメリカに着き、日本との文化の違いや考え方の違いを肌で感じる事ができました。初日は、知らない道、雰囲気にも日本に帰りたと思っていましたが、気の知れた友人と一緒にいるだけでマイナスな考えが無くなりました。

シリコンバレーで聞いた講演では、AIの話や、会社での働き方が変化している話、失敗は成功を可能にする話など、今後の生活に役に立つ話をたくさん聞きました。

また、アメリカは、みんなが楽しく自由に生活していると感じました。私も、いつでも楽しく生きていくという気持ちを忘れずに、勉学に励んでいければと思いました。

映像・音響デザイン学科 1年 宮木 紀彦

私は今回のアメリカ西海岸での海外研修修学旅行を通して多くの学びや、刺激を受けることができました。中でも、私は音響について学んでいるので「ハリウッド」での研修が最も有意義なものとなりました。

パラマウント・ピクチャーズ・スタジオでのツアーでは実際に使用されているスタジオやセットなどを見ることができ、プロのレベルを目の当たりにすることができました。

全体としては、英語でのコミュニケーションにはとても苦勞をしましたが、買い物ひとつするにも、相手が何を伝えたいのかがわからず戸惑ってしまう場面が多くありました。その中で、いかに相手の意思を汲み取り、伝えるかということの重要性を知ると共に、学ぶ良い機会となりました。

今回の海外研修修学旅行での経験をこれからの学校での授業や制作を通して深め、社会の人材ニーズに応えられる専門職に従事したい。



ゴールデンゲートブリッジにて



AppleにてAR体験



井坂様による講演

✈ 静岡福祉医療専門学校

アメリカ合衆国グアム(準州)

12月9日(日)~12月13日(木) 4泊5日

《研修概要》

◎グローバル社会で求められる様々な知識を獲得し、より良い未来の創造を!

・グアム大学研修(異文化交流)、介護医療・保育施設研修

子ども心理学科 二年学年部 井上 充子

静岡福祉医療専門学校4学科の2年生は、今年度グアムに研修場所を変え初めてのグアム海外研修修学旅行に参加しました。事前の学習により、それぞれが研修旅行の目的を明確にして臨み、自主的な参加を目指した研修修学旅行となりました。自己管理と協力の姿勢も個々が自覚を持っておかげで、全員無事に、また実り多い全日程を終えることが出来ました。

グアム大学での研修は、現地大学生のリーダーのもと、異文化体験としてココナツキャンディ作りにも挑戦し、またエデュケーショナルフェアというプログラムを受け、日本とは違う環境を肌で感じながら、興味深くグアムのライフスタイルや文化について学びました。拙い英語力で思いがあっても伝わらないもどかしさや、相手の話が理解できない悔しさを実感しながらも、積極的にコミュニケーションを取ろうとする学生たちの前向きな参加態度に感心させられるとともに、inputだけに留まらずoutputの難しさや大切さを学べた研修となりました。その後学科毎の施設現場研修では利用者様や子ども達と直接触れ合う機会を持ち、ここでも日本との違いに戸惑ったり感心したり、異国の地でなければ経験できない現場研修を行い、社会に出て医療・福祉・幼児教育等の場で働く学生にとって貴重な体験で、この学びは大いに役立てていただきたい。

また、寝食を共にし、協力しながら行動したことで友人との絆も深まりグアムでのよい思い出もできたことでしょう。

今回、事前からコーディネート、現地指導をしていただいた理事長・校長先生をはじめ留守をお願いした諸先生方、保護者の皆様から感謝申し上げます。



「歴史から学んだ関わり方」

総合福祉学科 2年 杉山 大夢

今回の研修修学旅行を通してグアムの歴史、介護の現状、グアム大学の概要を学び、様々なことを考えました。

グアムの歴史を事前学習する際、私は日本との戦争について学びました。日本はグアムを占拠し「大宮島」と名付け、チャモロ人を苦しめた過去や日本兵が防空壕内に生き埋めになりたくさんの人が亡くなったことを知りました。観光地としての意識しなかったため衝撃を受けました。戦争を通してグアムの高齢者は「日本人に対してどんな感情を抱いているのか・・・」と不安になりました。そのため、施設での実際の活動の際は利用者様との関わり方を丁寧に、恐怖心を抱かせないようにしようと努めました。笑顔で関わりを持つことでお互いの関係がよりよいものになったのではないかと感じました。その中でレクリエーションを行ったため日本の文化を楽しみながら知っていただくことができたのではないかと感じます。

グアム大学では、様々なレクリエーションを通し異文化交流ができました。共通言語がなくてもジェスチャーや、伝えたい気持ち、学びたい姿勢があると関係が築けることを学びました。

2年間共に学び、生活してきた仲間とグアムで過ごせたことは一生の思い出です。最高の4泊5日の研修修学旅行になり本当によかったです。今回の学びを来年度の実習、生活に、また社会に出てから活かしていきたいと強く感じました。

「セントドミニクで得られたもの」

介護福祉学科 2年 蟻坂 いつき

海外研修修学旅行の中で一番楽しみにしていたことがセントドミニクでの活動でした。活動が充実したものになるために「積極的に行動し、少しでも自分の力にする」という目標を立てました。目標達成のため、利用者様と多くのコミュニケーションを図ろうと努力しました。しかし、私自身の準備不足でうまくいかず焦ってしまいました。焦ってしまったため「利用者様が本当にやりたかったこと」に気づくことができませんでした。落ち着きを取り戻し、その方のやりたいことを聞き出し、一緒にレクリエーションを行うことができました。その時に英語やジェスチャーを用いて多くのコミュニケーションを図ることができたため、自信が持てました。それをきっかけに多くの方とコミュニケーションを図り、やりたいことを引き出し、一緒に行うことができました。

セントドミニクで持てた自信があったため次に訪れた病院では設備や患者様の病態、状況について積極的に質問することができました。特に印象に残っていることは「患者」とは呼ばず「救助者」といった呼び方に変えていることでした。自宅生活に近づけた環境の中で治療、療養、介護を行う環境を整え、在宅復帰時に向けての手伝いをする…といった意識の中で仕事をしている姿に感銘を受けました。

小さなことの積み重ねで大きな変化が生まれることを感じる事ができたので、今後は少しずつでも「確実な知識・技術」を身につけていこうと強く感じました。

「研修修学旅行で学んだ事」

子ども心理学科 2年 森脇 大喜

海外研修修学旅行で印象に残った事が2つあります。

1つ目は『セント・ポール・クリスチャン・スクール』で研修させていただいたことです。3歳児クラスで、子どもたちと折り紙を楽しみました。簡単な英語しか話すことができず、折り方を上手に伝える事ができませんでしたが、動物や飛行機などの折り紙を渡し一緒に遊び始めると、子どもたちはとても喜んでくれ、笑顔で話しかけてくれるようになりました。言葉が通じ合わない同士でも仲良くなることができ、子どもたちと楽しい時間を共有することができました。コミュニケーションというのは、言葉だけではなく様々な方法がある事を学ぶことができました。

2つ目は自由行動の事です。友だちとショッピングを楽しんだり、海に遊びに行ったり、とても充実した時間となりました。日本とは違う食べ物や、景色を存分に楽しむことができました。またグアムに行く機会があったら、英語が今よりも話せるようになってから行きたい思います。子どもたちとずっとスムーズにコミュニケーションをとり、日本の文化を伝え、現地の人達とたくさん会話を楽しみたいと思います。4泊5日は長いようで短く、とても充実した日々になりました。

「笑顔とあいさつの大切さ」

医療情報秘書科 2年 高岡 李歩

今回、グアムの地で幅広い年齢層の方たちと交流させていただいたことは、とても貴重な体験でした。自身の英語力の低さに不安を感じながらも、会話の中の単語を拾いなんとか意思疎通を図ることができました。グラム大学の学生達は英語ができない私たちにとても気を遣ってフランクに接してきてくれたので、私も自然と笑顔が生まれ、積極性を出すことができました。

また、「あいさつや笑顔はコミュニケーションの窓口になる」ということをグアムの地で再認識することができました。自分を開放的にすることで視野も広がり、笑顔とあいさつが自然に生まれてくるのかなと思いました。

就職先の事前研修においても、まだ仕事に慣れず余裕がないからこそこの2つを意識することで、患者さんへの思いやりの気持ちを表すことにもつながるのではないかと思います。文化の違いや環境の違いに戸惑うこともありましたが、クラスメイトや先生方、また現地の方との関わりを通して、一生の思い出に残るとても有意義で充実した5日間になりました。ありがとうございました。



新しい年、これからの「成長」をデザインしよう

進路室長 橋野 幸男

「日本経済新聞」2018/12/14の『私見卓見』欄で、株式会社 Spelldataの代表・竹洞陽一郎氏が、「教育期間を20~24年に延ばそう」と題し、次のように書いています(同社は、東京都千代田区。各種情報の収集・分析・処理、データ解析作業の受託・コンサルティング、など)。

一 この数十年で、社会で生きるのに必要な基礎知識は膨大な量になっている。… これまでの日本では、一人の人生の3分の1を社会に出て生きていくための準備期間と位置づけてきた。長寿化が進んでいることを考えると、この学習に費やす期間を16年から20~24年に増やしてもいいのかもしれない。教育方針を改め、基礎学力と自分で学び続けるための学習習慣の定着にもっと力を注ぐようにすべきだ。…

企業が求めるのは即戦力だ。個人は自前で十分な技能や知識を身につけ、成果を出したうえで高い給与を要求するしかない。だが、テストで評価するいまの教育システムで学んだ人は自ら学ぶ習慣が身につけていない。効率第一の学習でテストで高い点さえ取ればよかったからだ。解答があるとわかっていること、手順が明確なことは得意でも、知的に道なき道をゆくのは不得意。これでは今の企業が求める即戦力になりえない。…

明治維新後に、政府が富国強兵で力を入れたのが教育だった。国を成すのは人だからだ。日本は今、教育制度に真剣に向き合うべき「刻」を迎えている。—

竹洞氏の問題意識は、経済界に共通のもの。例えばこのところ、次のような提言がなされましたが、そのいずれにおいても、新たな社会のコンセプトを掲げたうえで、「教育」の変革について述べています。

① 一般社団法人日本経済団体連合会

「Society 5.0 —ともに創造する未来—」2018/11/13

② 公益社団法人経済同友会

「Japan 2.0 最適化社会の設計 —モノからコト、そしてココロへ—」

2018/12/11

少しだけ見てみると、①では「Society 5.0時代に求められる人材」を

AI-Ready ⇒ ・AIを活用して自ら課題を解決できる人材
・果敢に挑戦し、社会の仕組みを一から創り直せるような人材

多様性 ⇒ ・多様なチームでリーダーシップを発揮できる人材

としたうえで、「教育・人材育成への期待」として、

・教育は、異質性を伸ばす方向に大きく転換し、失敗を恐れずに挑戦する習慣を身につけさせるべき

・基礎的なリテラシー、文理分断からの脱却、平等主義からの脱却等の観点から教育のあり方を見直すことを期待と述べています。

新しい年を迎えました。皆さん、年度末の3月にかけて、今年度の学生生活を振り返り、この1年間での「成長」を確認しましょう。そして、今後、本学の教育機能を活用してどのような「人材」を目指すのか、次のchallenge(挑戦課題)は何か、を考えてください。あなたの成長を、「自分自身でデザイン」しましょう。

《1月の行事予定》

- 1日(火) 元旦
- ORT臨地実習Ⅲ(～1/12)
- 8日(火) 後期再開
- 14日(月) 成人の日
- 16日(水) オープンキャンパス 17:00~18:45
- 18日(金) 漢字検定
- 19日(土) 社会人常識マナー検定
- 21日(月) 1TW・CW第2期実習(～2/2)
- 2CP保育実習Ⅱ(保育所)(～2/2)
- 25日(金) ペン字検定
- 学校学科・入試説明会 17:00~
- 27日(日) 介護福祉士国家試験
- 31日(木) J検CBT

オープンキャンパス、学校学科・入学選考説明会は日程の都合がつかない方は個別対応も可能です。お気軽にお問い合わせください♪

企画広報室より

企画広報室 小林 昌人

みなさん、明けましておめでとうございます！冬休み期間中は有意義に過ごすことができましたでしょうか？生活リズムが崩れていませんか？まだまだ寒い日が続きますが、今年度も残りわずか。一人ひとりが素敵な春を気持ちよく迎えられるよう、体調管理に気を付けて新しい年をスタートさせましょう。

今月もオープンキャンパスを開催しています。出身高校の後輩や知り合いで、福祉医療や電子情報分野へ進みたいとか、進路で悩んでいる方がいたら、まずはオープンキャンパスへ参加するように教えてあげてください。中村学園の「良さ」を一番分かっているのは学生の皆さんだと思います。本学で学んでいること、目指していること、何でも構いませんので皆さんの後輩に是非声をかけてください。「挨拶を基調とした全人教育」の大切さ、「なりたい自分になる」ための学校であることは、経験している皆さんだからこそ伝えられることです。1人でも多くの方が中村学園の良さを感じ、仲間が増えたら嬉しいですね。共に中村学園を盛り立てていきましょう！

さて、ただいま後期AO入学選考のエントリー受付中です。1月23日(水)まではB日程のエントリー受付期間となっています。その他の特待生選考、自己推薦選考、一般選考での入学選考も次回は2月2日(土)に実施されます。中村学園への入学を希望する後輩やご家族等がいらっしゃいましたら、オープンキャンパス同様ぜひ情報を教えてあげてください。そして、皆さんもそうだったように受験生の皆さんは緊張して来校しますので、明るく声をかけてあげてください。皆さんの明るい挨拶が受験生の皆さんの緊張を解し、さらにはここで一緒に勉強したい！というモチベーションを上げる一番の激励になるはずです。

入学選考・オープンキャンパスの日程は次の通りです。

*オープンキャンパス・学校学科説明会

- 1/16(水)17:00~
- 1/25(金)17:00~

*後期AO入学選考

- B日程 エントリー ~1/23(水) ※2/4(月)までに結果発送
- C日程 エントリー ~2/15(金) ※2/27(水)までに結果発送
- D日程 エントリー ~3/22(金) ※3/29(金)までに結果発送

*入学選考

第3回入学選考 2月2日(土) 他、「募集要項」をご覧ください。

